

地域情報（県別）

【長野】地蔵健診のお告げは3人の医師が考案「楽しく医療学んでほしい」-井上剛・佐久市担当課係長、坂本昌彦・佐久総合病院医師らに聞く ◆Vol.2

2020年3月27日 (金)配信 m3.com地域版

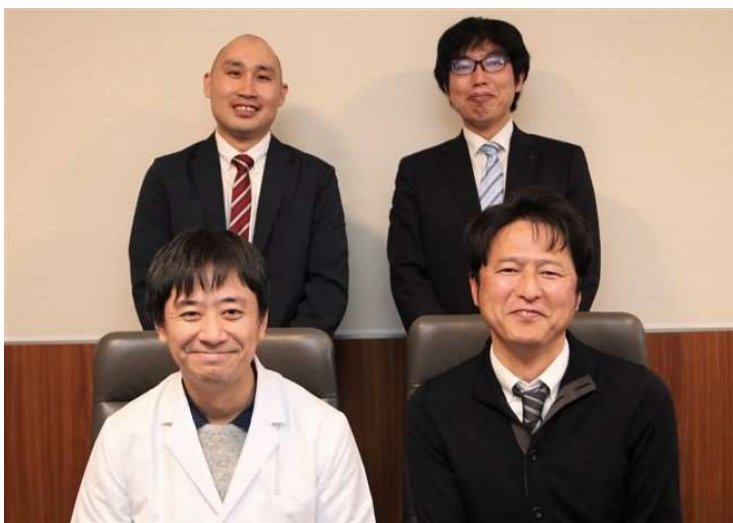
医療が充実した地域であることをPRしようと、長野県佐久市が1月に始めた「地蔵健診」。「健康リテラシーが高い」と言われる佐久市だが、実際に診療に従事する医師はどう考えているのか。また事業の詳細や手応え、今後の展開は。担当する佐久市経済部移住交流推進課交流推進係・係長の井上剛氏と静谷隆士氏、市の地域医療事務を担当する市民健康部健康づくり推進課保健医療政策係係長の小林英樹氏、事業に協力するJA長野厚生連佐久総合病院小児科医長の坂本昌彦氏に聞いた。（2020年2月14日インタビュー、計2回連載の2回目）

▼第1回はこちら

——前回の記事で、佐久市が「健康長寿の町」と言われる理由を歴史と数字の面から解説してもらいました。坂本先生は日々、患者と接しているわけですが、肌感覚として市民の健康リテラシーの高さを感じることはあるのでしょうか。

坂本 佐久市を含め長野の方は非常に真面目な人が多い印象を受けています。外来で伝えたことを次の受診時まで生かしてくれることが多くありますし、私は病院での診療とは別に、保育園や幼稚園に出向いて医療や健康について伝える出前講座を「教えて！ドクター」というプロジェクトの一環として定期的に行っているのですが、その会場でも雰囲気がいいんですね。参加しているお母さん方が真摯に耳を傾けてくれて、「聞いた話を実践しよう」といった様子が見えたりするんです。

「佐久市にはソーシャル・キャピタル（地域における人々の信頼関係や結びつきを表す概念）がある」と行政や医療関係者の間では言われますが、実際に私もそれを感じます。市民が医療に関する取り組みを自分に引き付けて考えられる傾向が高く、応援してもらいやすい風土があるように思います。



左上から静谷隆士氏、小林英樹係長、坂本昌彦医長、井上剛係長

——それはうれしいことですね。行政でもそんなことを感じる場面はありますか？

小林 そうですね。医療に関する講座を開くと多くの人が集まることから、市の方々の健康への関心の高さがうかがえるように思います。

前回の記事で坂本先生が話したように、佐久総合病院の若月先生が積極的に地域に入り込んで啓発し、医療関係者がそれに続いていったことが市民の意識に影響しているのではないのでしょうか。

佐久総合病院だけではなく、佐久市立国保浅間総合病院でも地域活動に尽力してきた歴史があり、初代院長である吉澤國雄先生（1915－2008）は現在も続く保健補導員制度の普及に貢献した先生でもあります。この制度は、各地区の人が持ち回りで「保健補導員」を担い、健康に関する知識を広げる活動に従事するというもので、吉澤先生は保健師や保健補導員を育成し、この人たちを通じて減塩運動を展開、当時全国的にも多かった脳卒中の患者を減らしたといいます。また、糖尿病患者のインスリン自己注射を日本に導入するきっかけをつくり、保険適用化に尽力されたそうです。

——保健指導員制度は面白いですね。医療関係者ではない、一般の人が医療機関や行政との橋渡し役になることで医療を身近に感じさせる効果があるのではないかと思います。さて、「地藏健診」の話に戻りたいと思います。前回の記事で概要をお聞きしましたが、もう少し詳しくお聞かせください。

井上 そもそも「びんころ地藏」というのは、佐久市の「のぞわ商店街振興組合」が「“びんぴん”と健康で長生きし、“ころり”と楽に大往生できること」を祈って2003年に同商店街近くの成田山薬師寺の参道に建立したものです。現在は観光ツアーの経由地の一つにもなっています。

地藏健診では、びんころ地藏のレプリカ（アルミ製、高さ約30cm）にお祈りすると医療に関するお告げが音声として流れるようになっていて、その語りは佐久市出身の落語家である入船亭扇好（いりふねてい・せんこう）さんに担当していただき、録音させてもらいました。

お告げの種類は約30種類で、地藏の手前にある木箱には「男性」「女性」「子ども」「シニア」と書かれた引き出しがあり、それぞれに各属性に合わせた内容のおみくじが入っています。おみくじは全部で約90種類あります。

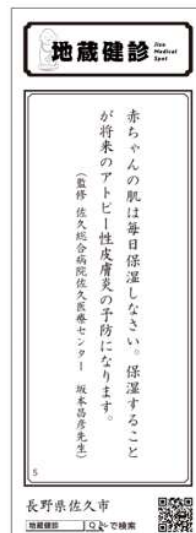


地藏の手前には各属性に合った内容のおみくじが入っている

——そのお告げとおみくじの内容を考えた医師の一人が坂本先生なのですよ。

井上 はい。坂本先生と、浅間総合病院内科部長の西森栄太先生、外科医長の尾形哲先生の3人にそれぞれの専門性も生かしていただきながら、考案してもらいました。

坂本 私は小児科医ですから、「子どものネタ」を市からお願いされました。不慮の事故や感染症の予防などをテーマに内容を検討していったわけですが、それに当たっては特に、「医師にとっては当たり前のことだけど、一般人にはあまり知られていないこと」を意識しました。たとえば、胃腸炎を予防するための消毒について、ノロウイルスやロタウイルスにはアルコール消毒が効かないので、効果的な次亜塩素酸ナトリウムを含むハイターなどの塩素系漂白剤を活用すること、市場に普及している空気清浄機のウイルス除去効果については実は医学的な根拠が乏しいことなどを素材として挙げました。ぜひ、楽しみながら医療のことを知ってもらいたいです。



おみくじの一例

——面白い、空気清浄機のごことは初めて知りました。地蔵健診を始めてまだ間もありませんが、市として何か手応えを感じたことはありますか？ 今後の展開も含めてお聞かせください。

静谷 複数のメディアに取り上げてもらえたのは良かったと思います。地蔵健診を行っている場でお祈りをした人に佐久市を知ってもらおうとともに、やはり多くの人に知ってもらうためにはメディアで紹介されることも重要です。シティプロモーションの方法をこんなユーモアのある形にしたのは首都圏の特に若い人に興味を持ってもらいたかったからですが、それと同時にメディアで紹介してもらいやすくする、という狙いもありました。その意味で、1月17日に東京で開いた会見に記者の方々が来てくれて、千葉県のテレビ局に紹介してもらったほか、後日、複数の新聞やウェブメディアにも取り上げられたのは一つの成果ではないでしょうか。

地蔵健診は3月中旬まで、佐久市に関係のある東京の4つの店舗でそれぞれ期間をずらして行い、以降は佐久平駅に隣接する施設「プラザ佐久」でいつでも体験できるようにする予定です。あとは、市が各地で開くイベントに地蔵を連れて行き、各地で参加者に体験してもらいたいと考えています。地蔵健診はシティプロモーションだけではなく、「佐久市民の郷土愛の醸成」という狙いもあるので、今後は多くの市民にも体験していただき、佐久市が「医療が充実している町」であることを再認識してもらいたいですね。それがひいては、市民の定住や転出抑制につながればうれしいです。

◆井上剛（いのうえ・つよし）氏

佐久市経済部移住交流推進課交流推進係長

◆坂本昌彦（さかもと・まさひこ）氏

佐久総合病院小児科医長

◆小林英樹（こばやし・ひでき）氏

佐久市市民健康部健康づくり推進課保健医療政策係長

◆静谷隆士（しずや・たかし）氏

佐久市経済部移住交流推進課交流推進係

【取材・文・撮影＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

